クローバーだより

２０２１年１月１２日
名古屋柳城短期大学附属
三好丘聖マーガレット幼稚園
加藤　千夏

３学期になりました。今年の４月から幼稚園に入園するお子さんをお持ちの方にとって、たくさんの喜び・楽しみに溢れていると思います。しかし、それと共に不安もあることでしょう。不安なことをひとつずつ安心に変えていけるように、一緒に考えていきましょう。

まだ十分に自分の気持ちを伝えられない子どもが、知らないお友だちや先生にきちんと話す事ができるかしら?と、心配をされているのでは・・・？　今回は「ことば」について書いてみました。

子どものことばの土台を育てる「聞く力」

ことばの習得には乳幼児期の豊かな聞く経験が必要不可欠です。周りの大人との心地よいやり取りからコミュニケーションしたいという意欲が育まれ、やがて、子どものことばとなって花開きます。子どもは大好きなおとなの語りかけを聞き、また自分の気持ちを聞き取ってもらう事で、人と通じ合える喜びと心地よさを感じます。その経験が言葉を獲得したいという意欲の原動力になるのです。

子ども自身が「聞く」「聞いてもらう」⇒ことばを育む２つの「聞く力」が大切

【心地よく聞く経験】

聴力の発達は胎児の頃から始まり、新生児は小さな音でも聞こえています。聞く力は五感の中でも早くに発達しているのです。大好きなお家の人の優しい声をたくさん聞いて、ことばが気持ちのよいものだということを、子どもが体験して知ることが大切なのです。聞いていて気持のよいことばで語りかけましょう。

【聞きやすい静かな環境作り】

今、子どものまわりには電子音があふれています。子どもは機械の音に混じって肉声が聞こえてきても、聞き分けられません。また、テレビやスマホは一方的に聞くだけになってしまい「ことばのやりとり」ができないのが問題です。テレビのつけっぱなし、スマホで子どもをあやすなど、機械音に必要以上に頼っていないか、気をつけましょう。

【聞いてもらう経験】

ことばにならないことばを、おとなが聞き取って意味づけることがとても重要です。自分の思いや訴えを聞いて貰えた、反応してもらえた、という嬉しい経験から、子どもの語ろうとする意欲が育ちます。聞き取ろうとしないと、子どもは思いや訴えを伝えることを諦め、自分の気持ちを表そうとしなくなります。これが子どもの言葉の発達の妨げとなります。

また、自分の気持ちや要求を受け入れてもらえた経験がないと、子どもの聞く力は育ちません。

≪寒い日もお外でいっぱい遊ぼう！≫

寒い季節ですが、子どもたちは外で遊ぶ事が大好きです。冬ならではの澄んだ空を見あげたり、冷たい空気を肌で感じるなど、五感を働かせながらお外で過ごしたいものです。また、走ってみると体が温まると感じることも嬉しい経験です。

ビニール凧を作って、思いっきり走ってみよう!!

走るだけで空気が入りたのしく遊べます。これならいっぱい走れそう！！

《子育て相談》

自分の子育てにこれでいいのかな？と不安に思われた時、
こんな時どうしたらいいのと思われた時にお話にいらっしゃいませんか？
保育経験者がお話しさせていただきます。お電話で予約していただき、
ご都合の良い日を決めさせていただきます。

TEL　０５６１－３６－８３７３　　お電話お待ちしています